

念の花

2025年1月8日

第18号

西南中生徒指導部通信

文責 松浦

前向き

新しい年を迎えました。

新年という節目を迎えると、自分の考え方が何でも「前向き」なような気がします。一五号でのせましたが、当然、「思う」だけではなく、「行う」ことをちゃんとやっていきたいと思っています。

とにかく自分に幸せを呼び込むには、「後ろ向き」ではなく、「前向き」な考え方をすることが大事だとよく言われます。

私たちの体も同じです。みなさん、歩くとき、どっちに歩きますか？前に？後ろに？横に？

人は「前」に歩きますよね。

私たちは「前向きに歩く」体を持っているのです。

目や耳や鼻はどっちについてますか？

耳はどっちに向いてますか？

そう、みんな「前向き」です。前向きな体だから、やっぱり前向きに考えて、前向きに行動するようになっていきます。

いらぬ心配をしたり、昔のことをクヨクヨ考えたりする体になっていないのです。

だから、体が慣れない「後ろ向きの考え方」をすると、疲れてしまうのです。

疲れるだけならまだしも、自然界には後ろ向きに行動すると、死んでしまう生き物もいます。そう「マグロ」です。

マグロは常に前を向いて泳いでいないといけない体になっていて、止まると死んでしまいます。だから寝ているときも

泳いでいます。マグロを網に囲い込み、水に潜ってマグロの尻尾を後ろに引く張ると、その場で死んでしまうそうなのです。人は過去を振り返っても、死なないようになっています。おそらくそれは、

“過去を「前向き」に検討するため…”だそうです。

記憶というものは、時間とともに変わっていきますから、その当時は辛かったことでも、後々思い出して考えてみると、

「あの時の経験がないと、今の自分はない。」

「あの時は気づかなかったけど、自分はその時、優しい方々にかこまれていたんだなあ。」…と、

いつの間にか、「感謝」の対象にさえなるのです。

そうであるならば、先に感謝をしてみませんか？

うまくいかない時こそ、感謝をするのです。

感謝が足りない時の一番顕著な例として、人が離れていきます。

辛い時に、あなたを心配して、寄ってきてくれた友でさえ、あなたが被害者意識ばかりで、ずっと後ろ向きな態度で接していると、いつの間にか友は離れていってしまいます。

感謝が足りないと、巡り巡って、人はみじめな結果になるものです。

前向きに生きるとは、感謝すること。

前向きとは、

人生に「ありがとう」を見つけることです。

そんな二〇二五年のスタートになることを願っています。